

# 少林寺たより 澤龍

平成28年 正月号

【発行所】  
 澤龍山少林寺  
 〒709-4606  
 岡山県津山市  
 中北上1150  
 TEL  
 0868-57-2303  
 【発行人】  
 清涼晃輝  
 TEL(携帯)  
 080-6351-9686  
 E-mail:  
 seiryo-k@mx1.  
 tvt.ne.jp

## 謹賀新年

清涼 晃輝

旧年中は、格別のご厚情を賜り深謝申し上げます。本年も皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、「うちは何宗だったかな？」時折そんな言葉を聞きます。少林

寺の檀信徒の方は、「うちは曹洞宗」とお答え頂けると信じておりますが、改めて宗教の柱となる宗旨と教義について述べます。

## 曹洞宗の宗旨・教義とは？

曹洞宗の宗旨は「本宗は、仏祖単伝の正法に遵い、只管打坐、即心是仏を承当することを宗旨とする。」(曹洞宗宗憲第三条)

つまり、お釈迦様から歴代に受け継がれてきた正しい教えは、ただひたすらに坐る「只管打坐」と仏の道を生きたことがそのまま仏となる「即心是仏」の心を標榜する教えです。

曹洞宗の教義は「本宗は、修証義の四大綱領に則り、禅戒一如、修証不二の妙諦を實踐することを教義の大綱とする。」(曹洞宗宗憲第五条)

つまり、修証義全五章①総序②懺悔滅罪③受戒入位④發願利生⑤行持報恩の構成です。そのうち②③⑤を四大綱領といえます。正しい仏法(仏教)が「禅」であり、「戒法(戒律)」をまもることも禅である。

実践修行「修」と、悟り「証」は無二の関係で修行と悟りは一体である。

お釈迦様、曹洞宗開祖道元禪師の仏法(教え)は、全ての人の開かれています。特に、在家(檀信徒)の方へは「修証義」で、日常生活における生き方の指針が示されていますので、その「修証義」全五章の大意を簡単に述べます。

### 第一章 総序

総序とは、総論という意味で仏教の基本的な教え、人生観、世界観が説かれています。いのちは無常で生死を受け入れ決着をつけること。心も行為も人生を明かし、責任ある生き方と自己の尊さを説かれます。

### 第二章 懺悔滅罪

「懺悔」自己の愚かさ

罪深さを悔い改め反省して、「滅罪」罪を浄めます。真心をもって懺悔すれば、必ず仏様のご加護があると説かれます。

### 第三章 受戒入位

戒を受け「受戒」します。戒は禅であり仏の力です。愚かなことを繰り返さないため、人の正しい生き方を仏様と誓約します。「三宝」仏(「仏様」)法(「仏様の教え」)僧(「仏の道を歩む人」)を拠り所とします。これが悟りの道であり、仏の戒を受けて仏の位に入り「入位」さとの世界に包みこまれることを説かれます。

### 第四章 發願利生

「利生」共に生かされる。自我の根源は煩惱です。その自我を越えるには他者を大事にすることです。他人を救おうとする請願を起し、布施(自ら進んで施し与えること)・愛語(相手を手を思う優しい言葉)・利行(見返りを求めず他者

に尽くす)・同事(共に歩み協調する)この四つの修行「四摂法」を柱とし慈悲行の實踐の大切さを説かれます。

### 第五章 行持報恩

例え、無益に百年生きたとしても、一日を真に生きたならば、その百年も真実になるといいます。この世に生を授かり、仏様の教えに出会えたことに感謝し、このご恩に報いることが私たちの信仰で、その生き方こそ仏の姿であると説かれます。

少林寺ホームページリニューアル  
<http://www.shorinzenji.com/>

曹洞宗澤龍山少林寺フェイスブック  
<https://www.facebook.com/shorinzenji>

晃輝和尚のブログ「覚禅堂」  
<http://ameblo.jp/seiryo-koki/>



お月さま

### 月の生き物、そして龍

志賀 勝

北原白秋は明治時代から昭和にかけての詩人ですが、子どものころ（明治時代の半ばごろ）仲間とよく「お月様いくつ十三七つ：」の歌を歌っては月を迎えたそうです。子どもは月を若いおばさまと想っていて、物持ちの月にいろいろなものをおねだりしたものだ、と回想した文章が残っています。同じころ、琉球に伊波普猷という偉い学者がいて、子どもたちは月にお餅をねだる歌をよく歌ったものだ、という回想が残っています（この歌は今も琉球でよく歌われています）。ウサギが月の中で餅をついているという想像は、だから単なる思いつきではなく、月が食料を恵んでくれていてという古い、古い想像をもとに現代まで引き継がれた貴重な遺産ということができません。

ヒキガエルとともにヘビが月の生き物で、月にある生命の水をへびが口に、月と同じように永遠の生命を謳歌していると考えられました。脱皮という不思議な生態が、永遠の生命の証拠と考えられていたのです。

龍という想像上の生き物は東洋でも西洋でも思いつかれたもつとも強力な生き物ですが、これは人間が想像をふくらませて蛇体（ルビジャたい）から成長させた生き物でした。水を司るものとして池や沼の主としてよく蛇体が考えられました。同じく龍も沼の主、池の主だったり雨を支配したりする、つまり水を司る絶対的な存在と考えられたのはそのためです。

長野県佐久市のある神社に、人間が住める土地をさがして川をさかのぼる月の神を描いた絵があります。月神は龍馬（ルビリゆうめ）―龍のように空飛ぶ馬で、うろこを持っています―にまたがり、神は紫の衣を着ていてその衣には龍が描かれています。月と龍とは現在ではもう直接の関係は失われたようにみえますが、はるか昔にさかのぼればじつは人間の月への想いから成長してきたものなのです。

本当に月は不思議な存在で、さまざま

な想像を刺激してやみません。ほら、今夜月と親しめば、月はきつとさまざまな想像を恵んでくれることでしょう。

<http://tsukigoyomi.jp>



◎「月と季節の暦」  
カレンダー発売中です！  
月から季節を学んでみませんか？  
◎是非、左のサイトご覧下さい。  
月の面白さ、暦の大切さが満載です



清涼 晃輝  
(少林寺 岡山県津山市)

私の寺では中秋の名月に「お月見坐禅会」をしています。豊かで優しい月夜の明かりの下に、子供からお年寄りまでが集います。凛と張り詰めた空気の中で、姿勢を正し、呼吸を整え、心を落ち着かせて、暫く静かに坐ります。坐禅後はお月見です。皆で作った里芋団子等をお供えし自然の恵みに感謝し頂きます。禅の教えに『両箇の月』があります。一つはお月様。もう一つはお月様が照らす月（私の心）。お月様を拝むと自然に素直な気持ちになります。（合掌）

# 仏の智慧に学ぶ

## 仏のことば ② (『仏教聖典』 仏教伝道協会 はげみ第二章第四節)

- ▼ ことばだけ美しくて、実行の伴わないのは、色あって香りのない花のようなものである。
- ▼ 花の香りは、風に逆らっては流れない。しかし、善い人の香りは、風に逆らって世に流れる。
- ▼ 眠れない人に夜は長く、疲れた者に道は遠い。正しい教えを知らない人に、その迷いは長い。
- ▼ 道を行くには、おのれにひとしい人、またはまさった人と行くがよい。愚かな人とならば、ひとり行く方がまさっている。
- ▼ 猛獣は恐れなくとも、悪友は恐れなくてはならない。猛獣はただ身を破るにすぎないが、悪友は心を破るからである。
- ▼ これはわが子、これはわが財宝と考えて、愚かなものは苦しむ。おのれさえ、おのれのものでないのに、どうして子と財宝とがおのれのものであるうか。
- ▼ 愚かにして愚かさを知るのは、愚かにして賢いと思うよりもまさっている。
- ▼ 愚かな人は賢い人と交わってもちようど匙が味を知らないように、賢い人の示す教えを知ることができない。
- ▼ 新しい乳が容易に固まらないように、悪い行いもすぐにはその報いを示さないが、灰に覆われた火のように、隠れて燃えつつ、その人に従う。
- ▼ 愚かな人は常に名誉と利益とに苦しむ。上席を得たい、権利を得たい、利益を得たいと、常にこの欲のために苦しむ。
- ▼ 過ちを示し、悪を責め、足らないところを責める人には、宝のありかを示す人のように、仰ぎ仕えなければならぬ。

### 檀信徒を訪ねて



「坪井豊川稲荷・城山稲荷」をご存じだろうか。

豊川稲荷の本山は、愛知県豊川市にある曹洞宗妙厳寺にある。その寺の鎮守「豊川夕とよかわ柾だき尼にしんてん真天」が稲穂を荷い、白狐に跨っておられることから豊川稲荷と呼ばれるようになった。

今川義元、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、大岡越前守などが深く信仰し、今でも多くの参拝者が訪れ賑わい絶えない霊地である。全国に別院・分霊が多数あり、その一つが坪井にある。場所は、津山市坪井下。坪井公民館から北へ進み国道を越え、高速道路を潜ると、赤い鳥居が見えてくる。

坪井は、江戸中期から後期に挙母藩（現愛知県豊田市）の領地であった。その

挙母藩陣屋に祀られていたのが豊川稲荷であった。明治四年の廃藩置県後、現地である龜山城跡に移された。かつて、多くの人々に信仰された坪井の稲荷は次第に参拝者が減少している。

今、最も信仰篤き方が妹尾三せのおみやこ八子（津山市坪井下）氏である。毎日欠かさず「稲荷様。稲荷様。」と念じ続ける。「また、稲荷様に助けられた。」と言われる。お陰があるのでしよう。



現在、坪井では年二回の大祭が稲荷信者の有志達で執り行われている。ご祈祷し、お神酒やご馳走が振る舞われる。住職も仲間に入れて頂いている。お稲荷様や地域の将来を語りあう時間は貴重で楽しい。

この霊験新たなお稲荷様をこれからも皆で祀っていききたい。

平成二十七年  
主な行事報告

●開山忌・総供養

六月十四日(日) 十四時



○開山 大網愚溪大和尚  
四百五十回忌

○十八世實參義道大和尚  
三十三回忌

導師 幻住寺御住職  
清涼太順 老師



○故 清涼峰代  
二十五回忌

導師 每来寺御住職  
岩垣正道 老師



○檀信徒総供養  
導師 当山住職



○お墓参り



● 孟蘭盆大施食会  
うらぼんだいせじきえ

八月十八日、毎年恒例のお盆の大法要に、本堂満員の百三十名の方が参列されました。今年は、今大人気の僧侶であり落語家である「露の団姫」様に、世界で一人だけ出来る自作の仏教落語を頂戴しました。仏様の教えと慈悲深いお姿を通して、改心して行く生き方を楽しい落語を通して学ぶ事が出来ました。笑いの絶えない会場でした。



● 禅道場体験  
ぜんどうじょうたいけん

八月二十一日、第四回禅道場体験を参加者八十七名（子供六十名、大人三十二名）にて開催



坐禅



読経



落語 宇座川亭宇座治



フルート 谷本平安子氏



法話



作務 (掃除)



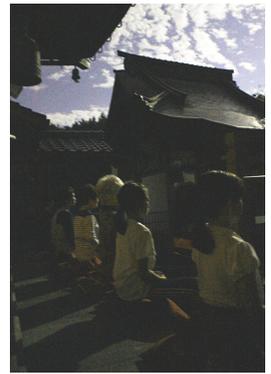
素麺流し



写経



●お月見坐禅会



九月二十七日十九時半  
 「中秋の名月お月見坐禅会」  
 坐禅、民話、お月見（田村洋子氏）参加者五二名（子供二十八名、大人二十四名）  
 十月二十五日十九時半  
 「後の名月お月見坐禅会」  
 坐禅、岡山邦楽合奏団六名による琴と尺八の演奏、お月見に参加者三十一名（子供十三名、大人十八名）



岡山邦楽合奏団

●特派布教講習会

人権学習、教区総会

九月二十九日、正覚寺様（津山市宮部上）で開催。  
 参加者は、福島鎮夫氏、河原静嘉氏、片山勇氏の三名。



●檀信徒研修会

人権学習会

十一月十一日、きらめき広場（新見市）で宝林寺御住職飯田正人老師（兵庫県）が講演『足元から見つめ直そう』を開催。  
 「ゴミをみればその町の人の人格がわかる。ゴミを集める人の気持ちを考え、ゴミを出しましょう。相手を思う気持ちが大切。一歩踏み出せば出来る」が沢山あ

る。大事なものは、恩返しと恩送り。直接、ご恩を返すことが恩返し。もう一つ、間接的に恩を返していくことが恩送り。次世代に相手を思う心、温かい心を繋いでいくことが今、大事なことでないか。」とお話されました。

参加者は、福島鎮夫氏、河原静嘉氏、片山勇氏、高柳泰雄氏、小福田茂利氏、住職の六名。

●婦人会活動

少林寺清掃活動

坪井下地区（六月十四日）  
 中北上地区（八月十七日）  
 中北下地区（十二月二十日）

次の方に法要接客係をご奉仕頂きました。

『総供養』

- 永田 千津子様（山根）
  - 澤田 通恵様（山根）
  - 村上 保子様（磯尾）
  - 『孟蘭盆大施食会』
  - 田丸 ふじ江様（坪井）
  - 河原 優代様（坪井）
  - 福島 由利子様（坪井）
- ありがとうございました

# 平成二十八年 年回表

一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十五回忌	平成四年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
三十七回忌	昭和五十五年
四十三回忌	昭和四十九年
四十七回忌	昭和四十五年
五十回忌	昭和四十二年
百回忌	大正六年

今があるのは、ご先祖様のお陰です。

平成二十八年一月一日発行

## 覚 禅 会

● 毎月第二土曜日

九時～坐禅、行茶  
十時～読経、写経

参加費無料。

坐禅と写経の二部制です。

一方の参加も可能です。

初めての方ご指導致します。

足の不自由な方の坐禅は、椅子に座り

足を組まなくてもできます。

写経は、椅子と机がございます。道具

もあります。

(使い慣れた道具があれば持参下さい)

檀家、年齢性別は問いません。

どなた様もお気軽にお越し下さい。

※団体の場合はご連絡下さい

(個別の日程は要相談)

※個人、団体、企業など出張で坐禅会・

写経会を致します。

勝手ながら、急な日程変更もあります

ので事前にご確認頂ければ幸いです。

ホームページ、フェイスブックでも

予定を掲載しております。(一頁参照)

《覚禅会一月～六月の予定》  
毎月 第二土曜日

- 一月 九日(土) 九時
- 二月 十三日(土) 九時
- 三月 十二日(土) 九時
- 四月 九日(土) 九時
- 五月 十四日(土) 九時
- 六月 十一日(土) 九時

《覚禅会 夜坐》 夜の坐禅会

- 二月 七日(日) 十九時半  
旧暦 大晦日
- 三月 二十日(日) 十九時半  
春彼岸会中日
- 四月 八日(金) 十九時半  
釈尊降誕会

● ご意見ご感想、次回  
の少林寺たより「澤龍」  
投稿募集中です！  
(歴史・俳句・川柳・  
短歌・豆知識・活動等  
ジャンルは問いません)